

# 第95回メーデー仙南地方大会を終えて



議長 佐藤 秀隆

2024年5月1日、第95回メーデー仙南地方大会を大河原町「白石川公園」で開催いたしました。COVID19感染症流行から5年ぶりの通常規模での開催、平日開催にもかかわらず各構成組織・ご来賓、全体で約700人の皆さまにご参加頂きました。式典の中では労働者の地位や労働条件の向上にとどまらず、人権や労働基本権の確立、民主主義の発展など、社会に向けてメッセージを発信して頂き、大変有意義なメーデーとなりました。ご来賓の皆さまにおかれましては、公務多忙の中、式典にご臨席頂き心から敬意を表すとともに感謝を申し上げます。

私は、平和であるからこそ、働くことを軸とする安心社会や誰一人取り残されることのない社会が実現できると確信しております。今メーデーでは、労働組合として組合員を含めてすべての労働者の地位向上とともに、恒久平和を希求する取り組みの推進を全体で確認。地域に根付いた活動を続け、実質賃金の増加が感じられない現状を是正して、働くことを軸とする安心社会を作っていくと訴えました。また、開催日に於いても、仙南地域協議会では会場確保の観点や開催日について複合して鑑み5月1日に開催しております。

メーデーは国際連合によって定められている国際デーであり、世界の80カ国以上がメーデーを祝日としていますが、日本では5月1日はメーデーが祝日に制定されておられません。日本には勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあうメーデーと同じ労働者の日でもある勤労感謝の日があり、メーデーと同じく労働者の日と言えます。よって、メーデーを祝日にするに似た意味合いを持つ祝日が二つできてしまう問題がありました。日本を始め、メーデーが祝日になっていない国もありますが世界的に見ると少数派で、その違いは、メーデー誕生の歴史と深い関係があることを学びました。労働者の働く環境を改善しようという動きが活発に見られた国では、メーデーを重視する傾向があるようですが、我が国のように労働環境改善に強く取り組んでいるにもかかわらず休日ではないことには理由があります。日本の労働界の歴史は様々な困難の連続で、直近ではバブル崩壊後の大不況です。日本は平成に入り大不況が長く続き、そのため祝日を増やして労働時間を減らすことが見送られたことも大きな原因と言え2024年問題の根源とも言えます。

歴史を理解し行動することは素晴らしいことと言えましょう。開催日についてジレンマが無い訳では有りませんが、我々労働者の基本である労働三権「団結権」「団体交渉権」「団体行動権」を活かすためには多くの仲間と団結する必要があります。そのためにはメーデーを労働者の祭典として開催し、交流の場を作ることで、働く意味や労働者の権利を職種の違う労働者が集まり情報共有し、興味を持って話しその上で働く人たちがより良い環境で働けるように、みんなでどうしたら良いか考え、協力することの出来る場が必要不可欠です。

今後も活発な労働運動を展開し、活動を通して皆様に提案し続けて参ります。一致団結し共にならば乗り越えましょう。

連合宮城仙南地域協議会 議長 佐藤秀隆



はたらくのそばで、  
ともに歩む



旅行ギフト券 (5万円) Get!!! おめでとうございます

☆TOYO TIRE労働組合東北支部さま

☆鉄道退職者の会仙南支部さま

# 連合救援ボランティア 「令和6年能登半島地震」の報告

- 期間：2024年4月20日（土）～4月27日（土）
- 場所：石川県「七尾市・能登市・珠洲市」
- 内容：被災者ニーズ調査
- 報告者：連合宮城仙南地域協議会 事務局長 笠松利信

## 【ベースキャンプ】七尾市「ホテル海望」（宿泊先）

元旦、震度6強を観測。宿泊者・従業員は避難し怪我人は出なかったものの、建物の上層階に及ぶ亀裂など地震の爪痕が大きく営業不能状態。今後は修繕や一部解体も視野に…現状は手探り状態とのこと。営業再開までには時間を要すると思いました。

## 【移動】七尾市～珠洲市～現地

朝7時、ホテル出発。バスで約2時間かけて現地へ向かう。途中「のと里山空港」で休憩、空港の規模は仙台空港の約半分程度。建物に損傷も見受けられる。道路や駐車場は陥没箇所もあるが空港ターミナルとして一日1往復（能登-羽田）運航している。空港から約1時間、ようやく「珠洲市ボランティアセンター」（珠洲市健民体育館）に到着。ミーティング後、車を乗り換え移動するも現地まで約50分程度。移動に時間を要しベースキャンプの場所が今後の課題だと思いました。

## 【ニーズ調査】車1台につき4名乗車し2班に分かれての調査

ニーズ受付票や地図、修理に関する申込書などを持参し現地へ向かう。準備されていた地図が古すぎて目印となるものが存在せず場所を特定するのが大変でした。（4/22～4/26：同じ作業の繰り返し）

ご近所の方が避難した場所も分からない。今後、空き家になるのか？元の生活が取り戻せるのか？地域コミュニティの問題など不安な様子が見受けられました。また、盗難が多発しているとのこと、安全面が心配と言った声もありました。しっかりと被災者に寄り添い長い目で支援をしていくべきだと思いました。

## 【現地の状況について】

### ① 七尾市

七尾駅周辺は徐々に復旧している一方で液状化現象や家屋の倒壊などの復旧は手付かずの箇所もあり、ライフラインが寸断の状態。同じ市内でも地区によって復旧に差があると感じました。

### ② 輪島市について

土砂崩れで倒壊した家屋、道路崩壊の被害箇所が多く見受けられる。復旧が全く進んでいないと感じました。

### ③ 珠洲市について

津波で家屋やビルが押し潰されており、当時のままになっている所が多い地域。町がゴーストタウン化している。

## 【ボランティア活動を通して】

2011年東日本大震災、2019年台風19号による丸森町豪雨災害ボランティア活動の経験を活かしたい…と言う思いを秘め、活動に臨みました。（連合東北ブロック連絡会から2名参加：佐々木<岩手>・笠松）

初めは、瓦礫撤去や分別・泥撤去作業など力仕事を中心としたボランティア活動だと思っておりましたが、実際は地域のニーズ調査でした。4ヶ月が経過しているが災害復旧を全体的に見ると作業全体が遅いと感じました。ライフラインの復旧工事はもちろんのこと、重機による生活道路の確保など作業を早急に進めていかないと元の生活を取り戻すには、まだまだ先だと感じました。一日も早く笑顔で安心して暮らせる日々が戻ってくるよう心から願っております。

